

公益社団法人 京都府助産師会

事業報告書

平成26年度

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町33番地1

目 次

《平成26年度事業報告書》

はじめに

I 子育て・女性健康支援事業（公益目的事業1）	2
1 相談事業	
1) 事業① 無料電話・メール相談	
2) 事業② 来館(個別面接)相談	
3) 事業③ 無料体重・身長測定（乳幼児）	
4) 事業④ 不妊（・不育）等相談事業	
2 妊娠期・出産から育児期支援事業【シードリーフ】	4
1) 事業⑤ マタニティ・ヨーガ&親子ヨーガ	
2) 事業⑥ サロン型ミニ講座	
3) 事業⑦ 妊婦講座	
4) 事業⑧ パパも育児のプロになる（パパプロ講座）家族のためのハッピー講座	
5) 事業⑨ ベビーマッサージ おこしやす広場「ぴかぴか」	
6) 事業⑩ 多胎育児支援（えんどう豆の会）	
7) 事業⑪ 妊娠,出産,育児サポート支援事業（スマイルベビー）	
3 事業⑫ 多世代育児支援事業【いきいき孫育て講座】	8
4 事業⑬ 出張型性教育事業【いのちのふれ愛講座】	8
II 事業⑭ 助産師再スタート促進事業【潜在助産師再就業促進事業】	8
III 指導,教育,研修会事業	9
1 事業⑯ 講習会・研修会	
2 事業⑰ 支援事業担当者養成のための講座【ミドワイフ道場】	11
3 事業⑱ 学生指導・教育（・研究）	
IV 事業⑲ 会議室等貸室事業	12
V その他の目的を果たす事業 運営管理	13
1 組織の強化	
2 健全な事業運営と効果的な広報活動	14
3 助産師業務の事故防止・安全対策の充実（安全対策委員会）	
4 防災活動と取り組み（災害対策委員会）	15
5 平成27年度（公社）日本助産師会通常総会及び第71回日本助産師学会の準備運営	

おわりに

（別紙1） 平成26年度産前・産後訪問支援員養成講座

（別紙2） 平成26年度ミドワイフ道場 実施項目と参加人数

はじめに

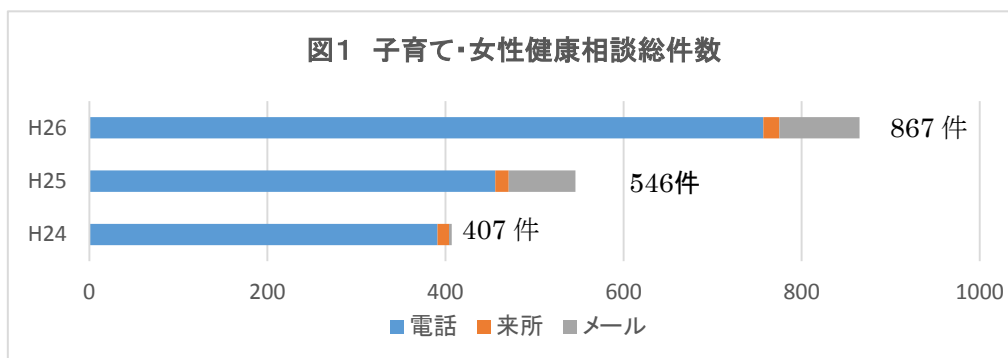
公益社団法人京都府助産師会は、公益社団法人日本助産師会との連携のもと、人々のニーズに応える助産及び母子保健領域の活動の発展を目指すことを目的に、特にリプロダクティブ・ヘルス・ライツ（性と生殖に関する健康・権利）の専門家として、安心・安全な妊娠・出産・子育てにつながる活動はもとより、思春期から更年期・老年期を含めた女性の一生のライフステージを通して幅広く対応することで、専門性の高い事業を展開した。

子育て困難社会といわれる状況において、親となる前の児童・青少年期や祖父母世代へのリプロダクティブ・ヘルス・ライツの普及活動を通し、地域ぐるみの子育て支援を充実、発展させていく基盤となる事業活動を報告する。

I 子育て・女性健康支援事業（公益目的事業1）

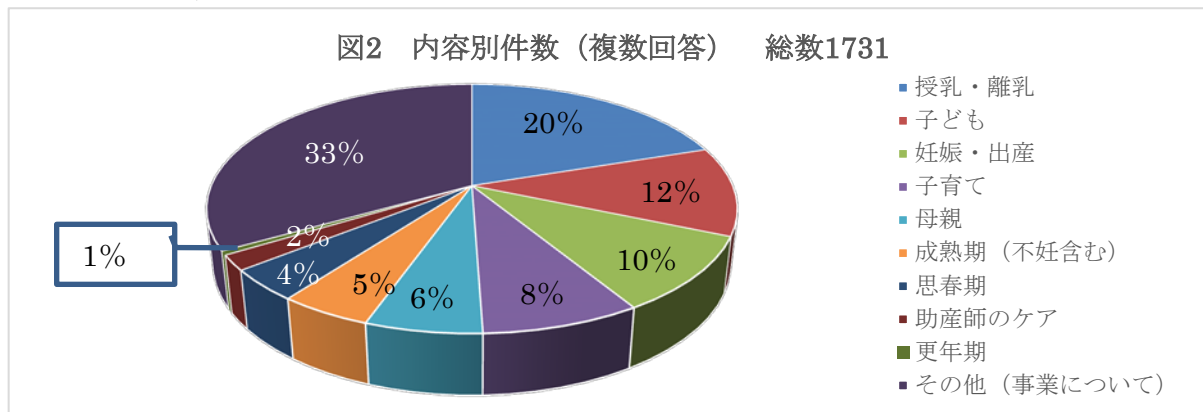
1 相談事業

- 1) 事業① 無料電話・メール相談：月、火、木、金曜日10時～15時 水曜日9時～16時
妊娠、出産、子育てのみならず、思春期、更年期、老年期など女性の一生を通して広く相談に対応でき、必要な情報提供や訪問などへ継続して支援ができた。



子育て・女性健康支援センター（当会館）における電話相談件数は、前年度456件の66%増の757件となり、来館相談20件とメール相談90件を含むと相談総数は867件であった（図1）。

センターでの相談内容の内訳としては、その他を除くと、授乳・離乳、子どもに関すること（発育・発達、健康に関することなど）、妊娠・出産、子育て、母親の順に多く、その4項目で5割を占めている（図2）。要支援として問題解決困難であったり継続的に相談を受けたりしている事例は延べ27件であった。



- 2) 事業② 来館（個別面接）相談：毎週水曜日13時～16時 木曜不定期 14時～16時
年間20件と昨年より5件増加した。妊婦1人の相談以外は、母乳不足、乳房トラブルなど母乳育児に関連した育児不安と授乳・離乳・卒乳に関する相談が大半を占め、その後会館事業につなげて継続的にフォ

ローしている事例が多かった。

3)事業③ 無料体重・身長測定(乳幼児)：

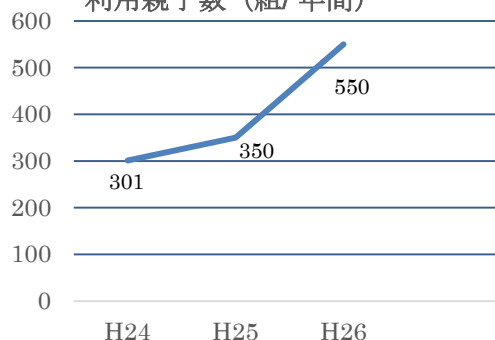
毎水曜10時～12時 第2, 4, 5水曜13時～14時

今年度は、年間延べ550組の親子が利用し、前年度より57%増となった(図3)。その要因として、第2, 4, 5水曜の午後延長開催、(公社)京都府栄養士会協力水曜ミニ講座での同時開催、リピーターの増加、地域への周知がようやく行き届いてきたことなどが考えられる。

子どもを連れて母親1人での初めてののお出かけから顔見知りとなったリピーターも多く、助産師はあくまでも利用者同士をつなぐファシリテーター的役割を担い、情報交換・交流の場となるように努めている。

定期的に体重や身長を測定し助産師や他の親子に会えることで、育児への安心感、自分に自信を持つ機会となっている。個別相談や継続支援が必要な場合は、来館個別相談やミニ講座などを紹介している。児の発育・発達面から、医療機関や保健センターからの二次的な見守りやサポート的役割も担っている。

図3 無料体重・身長測定
利用親子数(組/年間)



4) 事業④ 不妊(・不育)等相談事業

(1) 「にんしんホッとナビ」ホームページ管理運営およびEメール相談

平成24年11月より開設された「にんしんホッとナビ」(京都市委託事業)のホームページの管理運営をおこなっている。不妊・不育症等にかかわる悩みや、予期せぬ妊娠など、妊娠にかかわる相談メールを24時間受け付け、受付の自動返信の後、担当者が返信を行った。メール相談総対応件数は延べ88件で、平均月7件の相談数であった。多かった相談内容は10歳代から20歳代前半の女性の月経の遅れや避妊の失敗、妊娠を望まない時期などの理由で、妊娠かどうかの不安・妊娠判定時期や方法についてであった。メール相談後に保健センターなど関連機関に連携できたケースは1件で、迅速な対応に結び付き、感謝のメールも寄せられた。ホームページへの訪問者は4月から10月は1か月450から500件余りで前年度より増加したが、11月以降は1か月350件ほどに減少した。ホームページの有効な運用が必要である。平成26年度から変更された不妊に悩む方への特定治療支援事業について、特に不育症治療費助成制度、男性不妊治療費助成制度の開始や研修会や交流会のお知らせなど更新しアップした。

(2) 個別面接相談(すずらん相談)：第1・3木曜日①14:00～ ②15:00～(会館)

開催回数：19回 面接件数：16組であった。相談件数は昨年度より増加した。相談には本人以外に夫が同伴されることもあり、治療についてはもちろん、夫婦関係や、家族への思い、子どもが欲しいという気持ちについての相談が今年度も多かった。相談者が安心して気持ちを打ち明けたり、寄り添ってくれる支援者が少ない状況がうかがえた。治療途中の悩みが多い中、治療に踏み切るかどうかといった悩みや、治療よりも里親に関心がある方等、それぞれの状況に応じた対応が求められた。複数回の相談を希望する方もおり信頼関係の継続が必要とされた。

相談後のアンケートでは、助産師の対応や相談内容についての満足度が大変良い・良いとの評価であり、今後も同じレベルを継続していきたい。また気持ちが楽になった、不安が和らいだ等の感想があったことは相談の効果があったと考える。

(3) 交流会(すずらん交流会)：年4回、6・9・12・3月の第3木曜日に開催した。

不妊などに関する悩みを持つ人とその家族を対象に、知識の普及を行う講話とともに、参加者(当事者女性)同士が悩みを自由に話し合いコミュニケーションを深める場とした。

参加総人数は15名であった。少数ながら参加者には好評な会であるため、保健センターのみでなく各産婦人科病院・診療所等に働きかけ、広報活動を強化して利用者増を図る必要がある。一方、交流会参加を希望されない方もあるため、講義後、交流会への移行時退出しやすい雰囲気も大事かと考える。毎年講座のテーマは、相談者のニーズに合わせた内容を検討し、参加者数が見込まれる講座としていきたい。

(4) 不妊等相談事業に従事する者に対する研修会：年1回（1月16日）開催した。

テーマ「不妊や不育と関係する遺伝学的問題と遺伝カウンセリング」

～遺伝カウンセラーの視点から～

講師 松田圭子氏（大阪府立母子医療センター 認定遺伝カウンセラー）

保健師17名、医師1名、助産師13名 計31名の参加であった。不妊や不育の原因に隠れた染色体異常（均衡型）がある事、遺伝が大きく影響している事を学んだ。また、生殖医療が日々進歩し臨床で応用されていくが、当事者の方々にとってのより良い選択の為の理解を助ける説明は難しく、不妊・不育等の相談は知識の提供においても、多岐にわたり変化の多い情報を整理して説明すること、説明内容を理解されているかどうかの確認の必要性。同時に心理的なフォローや、相談者が自律的に決定できるような支援が必要であると学んだ。今回の内容をより深く学びたいとの感想もあり、好評な研修会となった。

(5) 不妊・不育等に関する普及啓発研修会：市民公開講座を年1回（8月10日）開催した。

テーマ「不妊につながる性感染症」

講師：保科眞二 医師（医療法人保科医院院長）

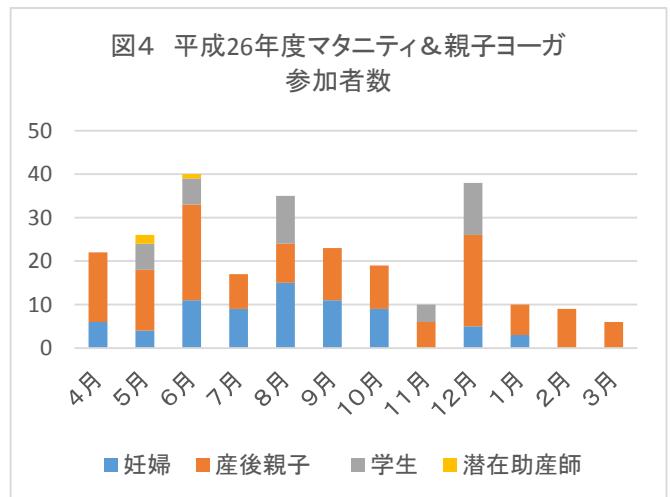
一般参加者2名、医療従事者16名 計18名の参加があった。性感染症は不妊につながるリスクが高いとの認識の元、活発な質疑応答や意見交換がなされた。講演内容は、10代の性行動に活発な女子と性風俗店などで働く女子の感染率の話、見る機会がほとんどない感染症患者の患部スライド、保科医院の調査結果から分かるSTIの最新情報など印象的なものばかりで、参加者のほぼ全員が「興味深かった」「面白くてわかりやすかった」と感想を述べており、大変好評であった。

2 妊娠期・出産から育児期支援事業【シードリーフ】

1) 事業⑤ マタニティ・ヨガ&親子ヨガ：
毎週月曜日 10時～11時30分（会館）

参加者によりマタニティ・ヨガと産後ヨガをコンビネーションさせたシード・リーフ特有オリジナル版は、自分自身の身体に向き合い心身ともに維持・増進できるようなエクササイズ、呼吸法、リラックス法が身につけられるプログラムとしている。

今年度は45回開催した。4月～12月までの限定でベビーマッサージと共に、初回のみ無料クーポンを実施した。その結果延べ参加人数は妊婦73人（内、無料クーポン37人）、親子140組（内、無料クーポン61組）、学生39人潜在助産師3人、総数255人、妊婦、親子は213人、その内、無料クーポン利用者98人（46%）であった。又、無料クーポンからの継続した参加者は98人中22人（22%）妊婦13人、親子9組であった。（図4）参加数は無料クーポンにより大幅に増えた。妊婦においては昨年より3倍以上増加した。ヨガを通して妊婦同士の交流の場となり、産後も継続されるきっかけとなった。クーポンを除いた参加数は115人であり、昨年度の137人よりやや減少していた。来年度はチケットを1千円にし、より多くの妊婦、親子がヨガを通して楽しく交流できることを目指す。



出張講座の依頼は児童館での親子ヨガ1件であった。今後も出張講座に対応していきたい。

2) 事業⑥ サロン型ミニ講座：ふれまま及びほっこりサロン：第1水曜 ちくちくサロン（作業しながら育児相談）：第3水曜 13：30～14：30

今年度は月2回（第1と3水曜）に開催を減らし24回開催した。参加者数は前年度の約1.5倍の126名となった（表1）。第1水曜は年間テーマを決めることで、予想通り、「離乳食」「卒乳」「仕事復帰と母乳育児」のテーマ時に参加者が集まった（表2）。赤ちゃんの育児グッズや出産関連品を手作業しながら情報交換を行う「ちくちくサロン」は毎月開催2年目となり、徐々にリピーターが増加している。

今年度から、公益社団法人京都府栄養士会協力による妊産婦向け水曜ミニ講座を、10月「赤ちゃんの栄養はお腹の中から～胎児期から始まる食育の大切さ～」、12月「親子で楽しもう！おっぱい育児から離乳食・卒乳まで～」のテーマで2回開催した。母親たちの関心の高いテーマを設定し、「中京区民まちづくり支援補助金事業」により参加費無料にした結果、参加者大幅増となった。さらに栄養士と助産師の双方の視点から繰り出される講座に対し、アンケートより「本などには載っていないお話がたくさん聞けてよかった」「自分と子どものペースで頑張ろうと思った」「近い距離で日常の具体的な話を聞けて質問もできてよかった」など満足度の高い結果を得られた。

次年度は、第1水曜の定期開催の代わりに、不定期に年間5回午前中に他職種協力などによる公開ミニ講座を開催予定である。第3水曜の「ちくちくサロン」は13時～14時半に時間変更し継続する。

表1 平成26年ミニ講座参加者数

名称	開催月日	妊婦	ママ	乳幼児	祖母	助産師	他	合計(人)
ミニ講座	第1、3水	5	27	27	1	0	0	60
栄養士会協力 水曜ミニ講座	10月15日	3	4	5	1	5	0	18
	12月3日	0	22	22	0	3	1※1	48
合計(人)		8	53	54	2	8	1	126

表2 ミニ講座（第1水曜）年間テーマ

H26年4月	5月	6月	7月	8月	9月
離乳食	離乳食	離乳食	卒乳	妊娠・出産	卒乳
10月	11月	12月	H27年1月	2月	3月
離乳食	妊娠・出産	離乳食	仕事復帰と母乳育児	卒乳	仕事復帰と母乳育児

3) 事業⑦ 妊夫講座（沐浴実習＋妊婦体験＋ミニ交流会）

男性（パートナー）が、妊娠中から積極的に妊娠・出産・育児に関わる機会を作り、女性をサポートすることができるような出産準備教室である。土日祝日に参加可能な妊夫カップルを対象としている。

表3 H26年度 妊夫講座参加者数

	開催月日	出産前				出産後		合計(人)
		妊夫	妊婦	祖父母	子	夫婦	子	
パパプロ 合同開催	H26年7月13日	7(3)	5(3)	0	1	2(2)	2(2)	17(10)
	H27年1月11日	8(2)	6(2)	0	1(1)	2(2)	2(2)	19(9)
	3月15日	10(2)	9(2)	0	0	0	0	19(4)
単独開催	H26年9月28日	7	7	0	0	0	0	14
	11月16日	7	6	2	1	0	0	16
合計(人)		39(7)	33(7)	2	3(1)	4(4)	4(4)	85(23)

()はランチ交流会参加数

今年度は「中京区民まちづくり支援補助金事業」により、参加費半額とし、2ヵ月に1回ペースに開催数を増やし、パパプロ講座と同日の午後開催3回と、単独開催2回の計5回実施した。中京区内での宣伝広報が充実し、参加者は前年度（32人）の3倍弱の85人と大幅に増加した（表3）。男性の多くは出産後パパプロ講座参加へ、女性の多くは支援事業への継続参加につながっている。

協力会員が増えたので、次年度もさらに広報活動を活発にし、2ヵ月に1回開催を継続する予定である。

4) 事業⑧ パパも育児のプロになる（パパプロ講座）家族のためのハッピー講座

今年度はパパ向け講座として「中京区民まちづくり支援補助金事業」を申請し、補助金を得ることができた結果、参加費を半額に値下げし、事業計画通り年3回の日曜日に開催した。参加人数は、前年度（53人）に比べ若干の増加（57人）ではあったものの、ママ参入のランチ交流会にはほとんどの家族が参加し賑わった。中京区内での宣伝効果により、新規参加者と中京区在住の方（21人）が増加した（表4）。子どもの年齢は1歳未満で6割を占め、父子だけの外出初心者の参加が多く、また、第2子出産後の母親をリフレッシュさせるためといった参加も少数見られた（図5）。

内容は前年度同様に男性講師には絵本やわらべうたを歌いながらの体をつかった親子遊びをはじめ、「パパ遊園地」「私は誰でしょう？」といったパパ同士もコミュニケーションしながらできる遊びが評判がよかった。「妻とのコミュニケーション」「祖父母との関係や地域の中での関係づくり」といったコミュニケーション講座では、普段感じている様々な悩みや疑問を表出し解決できたようであった。パパ同士の交流会では「気軽に話せてとてもいい機会になった」などのアンケートの声が多かった。全体的に満足度は高く、次回の参加を希望する内容が多かった。

ママ参入ランチ交流会は、ほぼ全員が参加され、家族ぐるみでパパプロ講座を楽しむ様子が伺え、他の家族や妊婦カップルとの交流も相乗効果となった。次年度は開催を2回に減らし、妊婦講座の出産後同窓会のような形に充実させていく方針である。

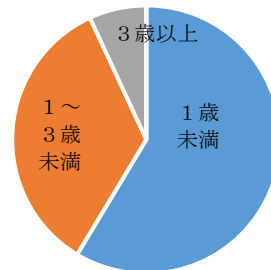
表4 H26年度パパプロ講座参加者数

開催月日	パパ	乳幼児	ママ	合計(人)
H26年7月13日	9(8)	9(8)	(8)	18(24)
H27年1月11日	10(9)	11(10)	(9)	21(28)
3月15日※	9(9)	9(11)	(8)	18(28)
合計(人)	28(26)	29(29)	(25)	57(80)

※男性講師1人とその家族を含む

()内はランチ交流会参加

図5 子どもの年齢



5) 事業⑨ ベビーマッサージ おこしやす広場「ぴかぴか」

ベビーマッサージを通して、出産後初めて赤ちゃん連れで安心して出かけられる場所として、助産師会館では年間23回開催し、延べ112組の親子が参加した。4月から12月は初回利用者むけの無料クーポン券を発行し、広報を兼ねた新規の参加者の獲得ができた。また、出張による広場は京都市内の児童館で4回開催し、延べ48組の利用があった。出張形態の広場開催は参加者の確保がなされており、この広場を通して、参加者間の交流や育児相談を行うことができ、育児不安の軽減には効果的であった。今年度は鍼灸師、マッサージ師対象のベビーマッサージを通しておこなう助産師の母子ケアについて講演依頼があり講師派遣をおこなった。充実した学生実習のためにも、参加者確保を含め、ベビーマッサージを含む育児講座としても内容を充実させる広場運営の検討を行い、次年度に向けた準備をおこなった。

6) 事業⑩ 多胎育児支援（えんどう豆の会）

(1) ツインズ通信第76号テーマ「京都の多胎育児サークル&集いの広場」夏号を7月に、第77号テーマ「パパのサポート」冬号を2月に発行し、HPに掲載した。

(2) メルマガを年間5回配信した。メルマガ登録会員数141名、今後も内容検討していく。

(3) えんどう豆ちゃんたちのファミリー教室を会館で3回(当初4回の予定だったが、参加者がなく3回となった)開催した。妊婦9名、夫3名、延べ12名の参加であった。先輩講師や参加者の募集方法など、次年度も検討が必要である。

(4) 妊婦家庭訪問・産後家庭訪問を実施した。無料家庭訪問20件(妊婦家庭訪問1件、産後家庭訪問は19件)有料家庭訪問は3件であった。

産後家庭訪問の集計21件の訪問時の結果は以下のとおりである。

① 年齢は28歳～42歳で初産婦19名、経産婦2名。児の月齢は1か月未満9名、生後3ヶ月未満は3名、6か月未満4名、10か月未満は3名、1歳6ヶ月未満は3名であった。出産状況は妊娠36週2日から38週1日で、帝王切開術が20名、経膈分娩は2名であった。

② 母への支援内容は、心身の疲労・家族へのサポート・睡眠・食事・精神的などであった。

また児の支援内容は母乳栄養・授乳方法・児の発育・ミルクの上げ方・育児支援・二人の違いなどであった。

③ おっぱいケアや母乳栄養と分泌、育児情報、児の体重や発育、2人の違いについて大いに役に立ったと、お母さんから訪問時のアンケートの結果が返ってきた。

以上の結果から訪問時の月齢は生後9日目から1歳2ヵ月とかなりの差があるが、多胎児の場合は各時期において育児不安があり、母子支援が必要であった。

同時に二人の育児をするには家族のサポートが必要であり、育児がスムーズに行えるように、妊娠中から産後の子育てと継続した家族支援が必要である。今後も妊婦・産後家庭訪問を継続し、行政とも連携していきたい。

(5) 「ツインズ通信」読者を対象に妊娠期からの多胎育児の実情に関する調査を実施し、多胎児を持つ母親の実情と支援課題を検討した。その結果、えんどう豆教室受講者では対照群に比べて妊娠中の精神的不安軽減が認められた。またインターネット情報の活用は進んでいるが、産後は具体的指導・個別支援が望まれていることが明らかとなった。今後さらに多胎家庭の支援者としての役割を果たすことが課題である。調査研究の結果は平成27年度の日本助産師学会で発表する。

(6) 宇治市社会福祉協議会主催の多胎育児支援講座「おしゃべりキャッチボール」に2回参加した。チラシの裏面に京都府助産師会の事業を掲載した。次年度も継続して年4回参加していく。

(7) 「中京保健センターのこんにちは赤ちゃん事業の評価会議報告」に参加、助産師における多胎支援について、多胎育児支援の実際について講義を行った。保健師からは、多胎妊婦訪問での対応の仕方、困ったケースなどの質問があり、アドバイスを行った。現在地域によっては保健師と助産師の同行訪問が行われている。今後も保健師や関係機関と連携しながら、多胎育児支援を継続していく。

7) 事業⑩ 妊娠、出産、育児サポート支援事業(スマイルベビー)

今年度は開催して6年目となり、第1子の時に参加されていた方が第2子を妊娠され、また参加される姿も多く見られた。高浜町で年間70～80人の妊娠届けが受理される中、毎回20組前後の妊産婦が参加している。平成26年度の参加者延べ人数は、妊婦36人、産婦197人で、平成25年度の妊婦47人、産婦256人より減少してきている。そのため、今まで事業内容としては大きな変更はせずに開催してきたが、次年度は事業内容の見直しを行っていく必要があると考えている。

参加者の参加動機は交流や友達作り、妊娠中の運動、育児相談があげられている。参加者の中には、初回時は育児不安や緊張が強く、他の参加者との交流もなかなかできなかった方が、毎回参加される毎に表情や緊張が緩み、他の参加者さんと交流されたり、連絡先を交換されたりする様子も見られた。

3 事業⑫ 多世代育児支援事業【いきいき孫育て講座】

講座、カフェ、開催の実績は表5のとおりである。

本会主催以外は高島屋の依頼のみであったため1年を通して参加者の人数が例年より少なかった。本会主催の講座の参加人数は平均4名であった。参加者がいなくて開催できなかった講座もあった。しかしながら、開催できた場合は、少人数で和気あいあいと話が出来、アンケート結果は上々であった。またカフェの参加者も少なく講座同様 広報と共に、内容を検討する必要があると考える。

表5 孫育て講座・カフェ回数と人数

(講座)	開催回数	参加人数
助産師会館	2	8
宮津	1	4
舞鶴	1	4
高島屋洛西店	2	9
高島屋四条店	2	13
(カフェ)		
助産師会館	2	1
	10	39

4 事業⑬ 出張型性教育事業【いのちのふれ愛講座】

平成23年度から平成25年度まで、子育て・女性健康支援センター

(以下、センター)からの出張型性教育講座の依頼は大幅に減少傾向であった。学校から助産師による性教育のニーズはあっても、講師依頼の予算が捻出できない現状があるとの声が多くあった。

このため、学校が負担する金額を低く設定することでこれらの学校のニーズに応えたいと、京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金の助成金を申請することにした。助成金を利用し、先着15校の中学校に「いのちのキャラバン隊：輝くいのち出張講座」を行うことができ、大変好評のうちに15校の全ての中学校への講座を終えることができた。今年度はキャラバン隊の出張講座も含め、センターからは前年度の倍にあたる30校の講座を行うことができた。活動を通じて、他の学校や、保健センターからも講座の依頼があり、地域の活動や他機関とのつながりを広げることもできた。

だが、助成金を利用した出張講座を除いた、学校からのセンターへの依頼は15校に留まっており、学校が外部講師を呼ぶ予算が捻出できずに、講師依頼が減少する傾向は今後も続くと予測される。このため、来年度も助成金の申請や、講演内容や広報の工夫が急務であると考えられる。

また今年度は会館での性教育講座を3回開講した。対象をそれぞれ①親子向け②助産師向け③保護者向けとした。

①「夏休み親子講座：うまれるよのキセキ」では、39名(保護者15名、子ども24名)の参加があり、会場は満席。お産劇が大変好評であった。京都新聞社からの取材もあり、後日お産劇の写真と共に掲載された。申し込みが多数となり、数組の親子をお断りすることにもなったことが残念であった。

②10月「助産師向けプレ講座」では、22名の助産師が参加した。受講後アンケートから分かったことは、性教育を改めて学びたいと思っている助産師が多いことである。実際にキャラバン隊で使用するパワーポイントを視聴することで具体的な学びとなったようで、受講の満足度も高かった。また、個人で性教育活動を実施している助産師も多く、新しい情報が得たかったから参加したという方も多くみられ、講座最後の質疑応答では、実践している中での悩みなども出て、活発な意見交換の場にもなった。

③1月「保護者向け性教育講座」には、30名(大人22名、小・中学生女子4名、乳幼児4名)の参加があった。性についてどう語るべきか悩む保護者が集まり、両親での参加も見られた。ただ助産師からの講義を聞くだけでなく、小グループを作り保護者同士の意見交換の時間も提供したことの評判もよかった。

3回を通して感じたのは、性教育を学びたいというニーズの高さである。毎回、募集人数を上回る参加申し込みがあったことは嬉しい悲鳴であると共に、私たちに更なる課題を与えられたとも言える。今後出張講座のみならず、会館での講座も充実させてゆき、保護者・子ども・専門家へのそれぞれのニーズに積極的に応えていきたい。

II 事業⑭ 助産師再スタート促進事業【潜在助産師再就業促進事業】

1 研修会について (実施内容は後述Ⅲを参照)

研修会の企画においては、助産師としてのスキルアップを目指す上で、興味関心を持ってもらえる

内容を検討し実施した。また、潜在助産師にとっても参加しやすい内容を考慮した。しかし、教育委員会主催の研修会では、潜在助産師の参加が得られなかった。

今年度の状況からみると研修会参加ではなく助産師会が主催あるいは後援する事業についての研修では就業に結びついているケースが多い。したがって、事業に参加した参加者を丁寧にフォローアップしていくことが重要である。

2 就業電話相談・就業への支援

助産師再スタート相談（電話・メール・面接による相談）を月～金曜日の10:00～15:00（6月1日～3月末まで）おこなった。相談件数は17件であった。

3 実務研修・就業相談後の状況

【実務研修数】

①診療所、助産所等における実務研修支援

参加者：5名（13件）

②助産師会が主催又は後援する以下の事業研修

参加者：19名、学生11名

今年度の実施状況では、潜在助産師とゆっくり話す時間が確保できるため就職支援に繋がるケースが多かった。

【再就業者数】

1名・・・バプテスト病院（常勤）

1名・・・バプテスト病院（パート）と助産師会館事業担当（水曜サロン）

*助産師会館事業見学者

1名・・・「つぐみ助産院」と助産師会館事業担当（パパプロ講座, 性教育

妊婦講座, 水曜サロン）, 京都市訪問事業（南区）

*研修会（昨年）および助産師会館事業見学者

1名・・・京都市訪問事業（中京区）

*助産師会館事業見学者

1名・・・京都市訪問事業（伏見区） 計5名

当会としては様々な支援事業を京都府全体で展開するなど、広範囲で潜在助産師への働きかけを継続した。今後も京都府全体を考えた事業展開を継続し、各地域での助産師活動の活性化をはかることで、潜在助産師の再就職促進につなげたい。

III 指導, 教育, 研修会事業

1 事業⑯ 講習会・研修会

1) 定期研修会の開催

【第1回研修会】

日 時：平成26年7月12日（土）

会 場：綾部商工会議所

講 演：「虐待の現状と今後の課題と対策—看護職に期待されること—」

講 師：澤田淳 医師（京都市子ども保健医療相談 事故防止センター 京あんしんこども館

センター長)

参加者：会員 23 名, 非会員 2 名, 学生 11 名

日本助産師会継続教育ポイント 1 点取得

虐待の現状について, 実例を交えながらの講演は大変わかりやすい講義であった。助産師として虐待を未然に防ぐ役割を再認識できた。京都府立医科大学の助産師学生さんの参加もあり, 当初の予定人数を上回る盛況な研修会となった。

【第 2 回研修会】

日 時：平成 26 年 11 月 9 日 (日)

会 場：京都府立医科大学

講 演：「逆境に立たされる保護者の子育て支援（発達障害の視点から）」

講 師：橋本和明氏（花園大学 教授）

参加者：会員 15 名, 非会員 1 名

日本助産師会継続教育ポイント 1 点取得

日頃, 母親への対応で苦慮することも多い中, 今回の講演のような母親自身が課題を抱えているケースについて非常にわかりやすく参考になった。事前の広報の不十分さで参加人数が少なかったことが残念であった。講演内容がとても学習になることから次年度も研修として企画することとなった。

【第 3 回研修会】日本助産師会タイアップ研修

日 時：平成 27 年 1 月 24 日 (土)

会 場：京都テルサ

講 演 1：「産む前に伝えること」

講 師：淵元純子氏（ふちもと助産院）

講 演 2：「今だから知っておきたいワクチン最新情報」

講 師：天満真二 医師（天満小児科医院院長）

参加者：会員 20 名, 非会員 2 名, 学生 1 名

日本助産師会継続教育ポイント 1 点取得

ワクチン接種は助産師にとって重要な指導項目である。接種スケジュールも年々変化する中, 正しい情報を持ち合わせることは必要であり, 良い学習の機会であった。

【その他】

平成 27 年度 5 月開催の(公社)日本助産師会主催第 71 回日本助産師学会のおもな運営担当として, 企画・講師交渉などの準備を行った。

2) 勤務助産師セミナー 次年度開始の本講座を紹介するプレ講座を二回行った。

第一回 平成 26 年 12 月 6 日 (土)

「開業助産師のケア 母乳育児」 講師 長尾早枝子氏（長尾助産院院長）参加者 19 名（うち非会員 7 名）

第二回 平成 27 年 1 月 10 日 (土)

「開業助産師のケア 妊娠・出産」 講師 左古かず子氏（あゆみ助産院院長）参加者 23 名（うち非会員 9 名）

アンケート結果にて, 有効回答数の約 9 割が本講座への参加を希望すると回答した。

3) 産前・産後訪問支援員養成講座

京都府妊娠・出産・産後支援事業として、産前・産後ケア専門員が作成したケアプランに基づき妊産婦宅に訪問し、育児、家事、外出などを支援する、産前・産後訪問支援員（妊娠・出産・産後支援のホームヘルパー的役割）を養成する講座を企画運営した。京都市内3カ所（宇治、綾部、亀岡）にて、ヘルパーやファミリーサポートセンターなどで活動経験がある方、育児経験者等を対象に、4日間22時間の専門講座を開催した。

4日間の参加延べ人数は、宇治49名、綾部22名、亀岡40名の計111名だった。修了資格を得て登録した人数は、宇治11名、綾部7名、亀岡7名の計25名であった(表6)。今年度は年度後半からの急な受託事業であり、宣伝広告期間がかなり限られていたため、参加者数と登録者数の両者とも目的数に達しなかった。が、講座参加者のアンケートは「今まで子育て支援の講座を何度も受けてきたが、妊娠・出産・産後についてこんなに詳細にきめ細かく学べたのは初めてだった」「実践的で具体的だった」など、とても満足度の高い結果を得た。次年度は年度早期からの宣伝を強化し、2か年計画登録者100名を目指す予定である。

表6 開催地別参加人数&登録者数

	開催日	1日目	2日目	3日目	4日目	計(人)	登録者
宇治	H26.10/23,11/1,11/8,11/15	12	13	12	12	49	11
綾部	H26.11/23,11/30,12/7,12/11	6	4	7	5	22	7
亀岡	12/14,12/21,12/23,H27.1/10	10	11	9	10	40	7
	計(人)	28	28	28	27	111	25

2 事業⑮ 支援事業担当者養成のための講座【ミドワイフ道場】:

(会館) 10月以外の月1回年合計11回開催(南部開催1回含む)、北部1回開催、

毎回違うテーマで参加型の少人数の講座を開催した(別紙1)。前年度に引き続き南部開催は、会館には遠くて参加しづらい会員や非会員の参加者を確保できた。北部開催は教育委員会研修会と重なったため、前年度のように市内からの参加はなかったものの、着実に非会員の参加を保持している。

7月には、「中京区民まちづくり支援補助金事業」により、舞鶴より講師を呼ぶことができ、非会員が最も多く参加し、他職種(保育士、保健師、子育て広場リーダーなど)の参加も見られた。同様にチラシ掲載した11月は、普段からパパプロ講座でお世話になっている男性保育士から、同性としての視点で、男性支援についてのヒントを多く学ぶことができた。

次年度は、他の研修会と重なる月の開催を取りやめ7回に減らす予定であるが、北部および南部での出張開催と助産師以外の専門職の講座を継続し、さらに潜在助産師の参加を見込めるテーマを企画している。

3 事業⑰ 学生指導・教育(・研究)

1) 学生実習については、表7のとおり前年度より2校増加した6校(看護学専攻4、助産科1、社会福祉学部1)を受け入れた。実人数計225名(うち男子26名)を指導した。事業別の見学実習は例年通り、水曜サロンの無料体重身長測定、ミニ講座、来館相談、マタニティ&親子ヨーガ、ベビマぴかぴか、ミドワイフ道場であった。毎年積極的な学生たちの実習に、事業参加の母親たちからも大変好意的な協力を得ている。

また実習開始前後には必ず教官との周知な日程打ち合わせ、学生の把握、問題点への対応、実習の振り返り、まとめをしながら、相互連携をしている。指導者側の事業担当者にとっても、学生の真摯な態度は、日頃の対応を見つめ直すために大変刺激を受ける機会となっている。大学・専門学校からの会員個人への講義依頼も増加し、地域と教育現場との連携も広がりつつある。次年度は、現在の受け入れ実習学生へのさらなるニーズへの対応と指導内容を充実させていき、それと同時に、受け入れ側である当会の助産師は、指導者としての資質の維持、向上にさらに努めたい。

表7 H26年度 学生実習学校別内訳

実習期間	学校名	学部学科	実習人数(男子)	内容
5/7~9/26	京都府医師会看護専門学校	看護学科2年課程	71名(10名)	母性看護学実習
8/4~8/27 (6/2, 9/298)	洛和会京都厚生学校	助産学科	20名	地域母子保健実習 オリエンテーション、総括
9/29~12/5	京都大学	医学部人間健康科学科看護学専攻3回生	64名(2名)	母性看護学実習
10月15日	佛教大学	社会福祉学部2回生	14名(4名)	子育て支援、会館での取組
12月8日	光華女子大学	看護科2回生	13名	ヨーガ見学、会館事業
1/14~2/18	明治国際大学	看護科2回生	43名(10名)	ライフサイクル実習
計	大学4, 専門学校2	助産1, 看護4, その他1	225名(26名)	

さらに今年度は、高校生に対する教育として、12月22日(月)京都府教育庁 指導部社会教育課振興担当 運営(株) 関広による、「家族の大切さや子どもを産み育てる意義を学ぶ」ための高校生向け『子育て学習プログラム』実践体験教室開催に、内容企画から当日業務、最終プログラム資料作成まで協力した。京都府南部の府立高校生(洛東, 桃山, 京都すばる, 洛水, 菟道, 京都八幡) 選択120名に対して、「エコーと心音で胎児の命を実感」「赤ちゃん沐浴とおむつ交換」の2つのブースで、妊婦との交流や沐浴体験を通じた助産師ならではの実践プログラムを実施し、生徒及び教育委員会関係者から大きな支持と感想を得た。

2) 学生研究への協力

今年度は、当会としての該当者はなかった。例年通り、個人会員としての協力は個別に対応している。

3) 研究活動

西支部からの問題提議を受け、本年度、教育委員会として研究活動を開始した。教育委員会としては、①教育委員会の事業の1つとして研究が必要 ②京都府助産師会提言のケア計画が実践できれば重要な意味をもつ ③助産師会の活動を広く知ってもらえる(会員動員) ④今後の若い世代の助産師会への入会の後押しを活動開始の理由として4点を挙げた。

- ・研究テーマ：産褥早期(1週間)の母乳育児支援の実態と課題
 - ・研究対象：施設からの退院後に関わっている開業および家庭訪問を実施している助産師各5名。京都府下(北部・南部)および京都市と地域の偏りが無いように選択した。
 - ・研究の進捗状況：
 - ①母乳育児の実態について、文献研究より明らかにすることを目的とし、現在、文献レビューを実施している。
 - ②産褥早期(1週間)の母乳育児の実態を明らかにすることを目的とし、今年度は質的研究について、第1段階として学習会を開催し、質的研究の目的・方法を研究メンバーで確認した。
- 次の段階では、インタビューに際しどのような質問を実施すればよいか、文献の参考とメンバーの体験も加えて現状を反映するものであるよう検討し、質問項目6項目を選定した。現在は、インタビューにむけての練習を行っている。

IV 事業⑩ 会議室等貸室事業

主として、当会会員の子育て・女性健康支援を目的とする個人活動の事業(エクササイズ・リラクゼーションクラス、親業コミュニケーション講座、母乳育児基礎セミナー、助産師さろんなど)に対して、会館の1階ホール、2階会議室を年18回賃貸し、事業を展開してもらうことで広く社会の子育てと女性の健康

に貢献した。さらなる有効活用を目指したい。

V その他の目的を果たす事業 運営管理

1 組織の強化

1) 新入会者の獲得 新入会者は 22 名(勤務部会 14 名,保健指導部会 2 名,その他),平成 26 年度末で会員数 264 名(うち特別会員 3 名含む)となった。

2) 技能上達のための小研修を含めた専門部会,支部交流会の活動

《専門部会活動》

(1) 助産所部会：安全・安心・安楽な出産ができる環境を整えることを目標に活動した。全国分娩基本データ収集システムに対象の助産所全 11 か所が加入し,迅速な報告に努めた。平成 26 年の分娩数は 76 件,転院・搬送数は 25 件で助産業務ガイドラインに従い正しい判断で早めの対応が出来た。また定例会では毎回事例検討を行い部会員間で学び合った。前年度は周産期医療連絡協議会加入に向け,府へ要望書を提出し医療機関へ連携依頼をしたが,緊急母体搬送に関しては,囑託医を介さず助産所からの直接依頼では受入れられ難い状況であり,今まで以上に囑託医療機関との連携に努めるための第一歩として 9 月には初めて京都府周産期医療協議会の傍聴を行うことができた。年 1 回の監査を実施,部会員以外の立ち合いはできなかったが安全対策委員が中心となり,重要事項は年度末までに改善された事を確認した。本年度より新たに始まった京都市のスマイルママ・ホッと事業の委託機関として 2 件の助産所が登録参加している。

研修会を主催,また府・市及び各種団体の研修会,学校教育(看護学校,助産学科授業や臨床実習,性教育など)子育て支援事業へ講師などとして各々が参加した。

(2) 保健指導部会：

①(公社)日本助産師会 近畿地区(滋賀)の部会集会での情報交換。保健指導部会員活動調査(活動内容,報酬,保険加入の有無など)に協力。京都府は 75 名中 40 名が回答。当会部会集会は,5 月総会後と,2 月に実施。交流や情報交換が活発になされた。

②京都市に「訪問指導事業に従事する助産師の待遇改善等についての要望書」を 12 月 17 日に提出,助産師会からは三反園会長,保健指導部会長・副部会長,京都市からは保健医療課長,他 3 名で話し合いをもった。母子保健の質の向上のためにも,助産師が訪問事業に関わることが重要,人材を充実させるためにも条件と信頼関係は大切,と理解を求めた。要望書作成のために,状況把握のための調査を会員対象に実施,条件比較のため,政令指定都市を持つ都道府県助産師会からも協力を得た。直ぐの待遇改善とはいかなかったが,行政とは今後も定期的な話し合いを持つ予定である。また,2 度にわたる調査結果を報告することにより,他の会員の訪問への思いを知ったり,状況を知ることができてよかったという声もあった。今後もよりよい保健指導活動を続けるために,学習,交流,意見を出し合い,その意見を行政など他機関につなぐ活動は重要であると考えた。

③11 月 8 日に教育委員と共催開催,「逆境に立たされる保護者の子育て支援(発達障害の視点から)」の研修を実施(橋本和明講師)。好評であったが参加者が少なかつたため,次年度も同じテーマで開催予定。

(3) 勤務部会：平成 26 年度総会の昼食後,交流会を行った。その中で,「助産師会に入会した職場の同僚や後輩が,継続せず退会していく。どうすれば継続してもらえるか。」という悩みがでて,それについて意見交換をした。

支部の交流会やプレ講座に積極的に参加し,交流を図る勤務助産師も増えては来ているが,11 月に教育委員会と合同開催した研修への参加は少なく,会員の継続の問題もあわせ,勤務助産師のニーズに沿った

研修内容等を考えていく必要性を感じた1年であった。

来年度開催される「勤務助産師セミナー スキルアップ講座」は、中堅助産師のスキルアップの絶好の機会になると思われる。勤務調整が難しいとは思いますが、多数参加を願いたい。

《支部会活動》

(1) 北支部：2月28日昼食を兼ねて交流会を実施。11名の参加があった。それぞれの会員の現在の活動報告、京都府助産師会からの報告、日本助産師会総会への協力のお願等、打ち合わせを行った。

(2) 東支部：2回の支部会を行った。平成26年9月20日、テルミーの勉強会を開催し、5人（内1人は非会員）参加した。参加者の中には早速入会し、テルミーを始める方もいた。平成27年3月20日はパン作り交流会を行い、9人も参加した。初参加の方も複数おり、情報交換や会員同士の交流を広げることができた。

来年度は連絡網の整備を行うことで、更にこまめな連絡・広報を行い、参加会員が増え支部活動が活発になるよう努めていきたい。

(3) 中支部：11月18日（火）に会館で「ヨガを楽しもう！！」をテーマに西支部と合同で交流会を実施した。参加者は18名。岡崎講師の指導のもと、日頃の疲れを癒し、ヨガを楽しむことができた。ヨガの後はグループワークを行い、各会員や各施設間の情報交換も行うことができた。

また非会員の参加もあり、会の活動や事業の広報活動の機会になり、会員獲得にも繋がったと考える。今後も各施設間の勤務助産師、地域助産師との連携を深め、会員の確保の活動を継続していきたい。

(4) 西支部：11月18日（火）会館で中支部と合同で交流会を実施、18名参加があった。ヨガで身体を動かし後半はグループワーク形式でテーマに沿って活発な意見交換を行い会員同士の交流を深めた。

3月1日（日）京都アスニーでランチ形式で西支部交流会を実施、8名の参加があった。料理を堪能しながら地域や勤務助産師との情報交換を行い交流を深めることができた。支部連絡網は主にメールを利用、数人には電話連絡の手段を継続する。

(5) 南支部：今年度は諸般の事情により、交流会を1回行ったのみであった。平成27年2月28日（土）に8名の参加者で昼食をかねて近況報告、助産師会への要望等を話し合った。支部の地域が広域なために、交流会の場所を設定することが難しく、支部メーリングリストの廃止で連絡や交流に支障をきたしている。また、地域の特性により勤務地が京都府外であったり、勤務助産師の多忙で不規則な勤務も影響している為か、勤務部会の支部会員とは交流が困難である。会館の事業への参加も、地理的に遠方であることで参加が難しい状態であるが、今後も根気強く働きかけていきたい。

(6) 丹後支部：4月19日丹後地区の助産師 交流会を開催。参加者23名。いろんな人とより交流ができるようにワールドカフェ方式でグループワークを行った。今の母子を見て感じていること、自分はこれから何をしたいかなど話し合い、活発な意見交換ができた。ミドワイフ道場、綾部会場での研修会、孫育て講座の北部開催をした。また、京都府の産前・産後訪問支援員養成講座が綾部市で開催され、丹後支部の会員も協力できた。

行政との連携については、高浜町スマイルベビーの委託事業を4年目も引き続き受けることができた。平成27年度より舞鶴市の新生児訪問の委託助産師が2名から3名採用が決まった。平成26年度より綾部市主催の「ぷくぷく広場」に綾部市の助産師会会員が関わられるようになった。

災害時の連絡、連絡網について、携帯電話の電源の問題や、それぞれの勤務が違うため、施設単位に連絡係を設けるなど連絡方法についての検討課題が残っている。

2 健全な事業運営と効果的な広報活動

1) 運営委員会：年5回開催した。各事業の情報を共有し、事業運営やそれぞれの活動状況について話し合った。主な検討事項は、勤務助産師セミナーを今年度より開始。各事業会計担当者の設置。会館使用、鍵管理について、事務作業についての見直し、会館利用者保険変更と来館者名簿の作成。各事業の賃金・交

通費の支給の不平等を是正,賃金の均一化,運営副委員長の設置。マタニティ・親子ヨーガとベビーマッサージの初回無料体験を12月末まで実施。水曜サロンの無料体重・身長測定の活動時間延長・事業活動実態に合わせ,事業に伴う事務,会館管理作業の平均化を検討。

広報活動としては,関連団体等との事業開催広報は,案内チラシ配布やホームページのリンクやメーリングリストの活用などで互いの広報につなげた。

また,12月20日(土)京都市,公益社団法人京都市児童館学童連盟,京都子どもネットワーク連絡会議主催の『やんちゃフェスタ』に参加し,出産や子ども健康相談コーナーにてブースを担った。事業ポスター展示,胎児人形の展示,体重身長測定,子育て相談のほか初の試みとしてミニ性教育劇のステージ発表を行った。多くの方に見てもらうことができ,当会の広報活動にもなった。

2月11日(祝)には,京都府少子化対策キャンペーン事業 おふいすパワーアップ運営『京都パパ応援フェア』に,子育て応援ブース(個別相談&情報提供)として協力した。235名参加者の中,当会の男性向け講座をはじめとしたパネル展示,事業紹介を行った。個別相談には,男の子への性教育,妻への精神的な相談など計7件対応した。

2) 準備委員会: 5月17日(土)京都府助産師会総会会場設営等の準備協力をした。

平成27年5月21~23日に開催される日本助産師会総会・学会京都実行委員会メンバーとして参加協力する。準備委員会は会場見学を含めて3回実施。総会当日全体の会場設営や役割分担等打ち合わせを行い事前準備に取り組んでいる。

3 助産師業務の事故防止・安全対策の充実 (安全対策委員会)

今年度の活動は,一件の事案について,安全な分娩にならない可能性が発生したため,当該助産師に聞き取り,理事会に報告し出来る限りの対策を行い,その後助産所部会にて症例検討を行い日本助産師会に報告した。日本助産師会の安全対策委員の方でも検討され,結果の報告を受けた。また,2回の委員会を7月20日と12月1日に行い会員の助産業務への安全対策にあたり,医療法・助産業務ガイドラインの周知徹底について話し合い,昨年度から作成中の保健指導の評価表を,来年度に数人に試行してもらい完成させることを決定した。ヒヤリハットの提出状態の報告を受けた。助産所の安全管理評価を例年どおり行い,すべての助産所ができている状態であることを確認し,日本助産師会に報告した。これからも万が一事故発生時には速やかに対応し,理事会と連携を取りながら事態収拾と再発防止に努める事を計画している。

4 防災活動と取り組み (災害対策委員会)

1) 近畿防災会議出席: 1回/年開催。滋賀県にて開催。広域災害を想定した近隣府県助産師会との連携,協力を視野にいれ会議を行っている。

2) 京都府避難訓練参加: 8月31日,木津川市中央体育館及び周辺グラウンドにて開催。8名の会員が参加。展示ブースにて,妊婦・赤ちゃんを持つ母親・女性への災害時の心構えなどについてのパネル展示,パンフレット配布,妊婦体験ジャケット・赤ちゃん人形・災害時用スリングなどを用いた体験学習,カップ授乳の実際を見せるなどの災害時の支援に役立つ情報提供を行い,助産師の活動を伝える機会となった。

3) 京都府災害時等応援協定ネットワーク会議の出席: 行政とのつながりを作り災害時に協力できる体制を作っている。

4) 災害ボランティア登録: 今年度は27名の会員が登録。

5) 第3回災害に対応する訓練(安否確認)の実施: (公社)日本助産師会の要請により2月3日に全国一斉に実施。災害に対する危機意識を常に持ち,会員同士の連携を築く事,災害時に助産師の人材確認をし,助産師が支援できる体制を整える事を目的としている。

昨年度に比べ安否確認できた会員は増加しているが,安否確認方法について来年度に向け再検討していく予定。

6) 防災マニュアル：現在検討中。

7) 妊産婦等福祉避難所：3月24日に京都市と協定を締結。現在、京都市とその開設に向け会議に参加し準備を行っている。

5 平成27年度（公社）日本助産師会通常総会および第71回日本助産師学会の準備運営

平成27年度上記の総会・学会が79年ぶりに京都市内で開催されるにあたり、開催地の実行委員会・事務局として運営協力を引き続きおこなった。当会として日本助産師会総会・学会に合わせて創立110周年記念事業を企画し、助産師会関係者へ記念品の配布と助産師業務に関する歴史的資料の展示ブースの出展を行うことを決定し、準備を進めた。

おわりに

平成26年度は平成25年度に引き続き、助産師の職能団体として、公益事業の効果的な活動とその内容の充実に努めた。行政からの新たな受託事業が増え、関連団体と協働・連携する事業も増加した。さらなる関連団体との取り組みも進行中である。そのためにも組織強化をはかり、当会の活動が多くの市民に周知されることが今後もさらに必要である。

別紙1 H26年度 産前産後訪問支援員養成講座		10/23(木)プログラム1日目 in ゆめりあうじ (会議室1)		11/23(日) 1日目 in 綾都市民ホール		12/14(日)1日目 in 亀岡会館第3会議室2/3	
時間	講座	講座名	時間	講座	講座名	講座	講座名
10:00	講座1	産前・産後訪問支援員養成事業について	30分	講座1	産前・産後訪問支援員養成事業について	講座1	産前・産後訪問支援員養成事業について
10:30	講座2	「今どきの子育て世代の生き方、ニーズを知る」～女性としての多様な生き方を受け留めるために～	60分	講座2	「今どきの子育て世代の生き方、ニーズを知る」～女性としての多様な生き方を受け留めるために～	講座2	「今どきの子育て世代の生き方、ニーズを知る」～女性としての多様な生き方を受け留めるために～
11:40		自己紹介 アイスブレイク	30分		自己紹介 アイスブレイク		自己紹介 アイスブレイク
13:10	講座3	「協働・連携する行政施策、社会資源を知る」～必要なサービスが活用できるように～	50分	講座3	「児童館、子育て広場など、地域でつなげる楽しさを学ぶ」～どのような形で一歩外へ踏み出せるか?～	講座3	「児童館、子育て広場など、地域でつなげる楽しさを学ぶ」～どのような形で一歩外へ踏み出せるか?～
14:10	講座4	「今と昔の妊娠・出産・子育て事情の違いを知る」～今どきの子育て世代の心強い支援者になるために～パート1	120分(グループワーク)	講座4	「今と昔の妊娠・出産・子育て事情の違いを知る」～今どきの子育て世代の心強い支援者になるために～パート1	講座4	「今と昔の妊娠・出産・子育て事情の違いを知る」～今どきの子育て世代の心強い支援者になるために～パート1
11/1(土)プログラム2日目 in 宇治総合庁舎 (大会議室)		11/30(日) 2日目 in 綾都市民ホール		12/21(日)2日目 in 亀岡会館第4会議室(全)		12/23(火祝)3日目 in ガレリア亀岡	
10:00	講座5	「妊娠・出産・産褥期の生理的な心と体の変化を知る」～女性の一生に寄り添う助産師の視点から～	120分	講座5	「妊娠・出産・産褥期の生理的な心と体の変化を知る」～女性の一生に寄り添う助産師の視点から～	講座5	「妊娠・出産・産褥期の生理的な心と体の変化を知る」～女性の一生に寄り添う助産師の視点から～
13:00	講座6	「ハイリスク妊娠・出産・産褥期の疾患、合併症、治療について」	60分	講座6	「ハイリスク妊娠・出産・産褥期の疾患、合併症、治療について」	講座6	「ハイリスク妊娠・出産・産褥期の疾患、合併症、治療について」
14:10	講座7	「支援者としてのコミュニケーション・スキルを学ぶ」～女性とその家族をエンパワースするのために～	120分(実習含む)	講座7	「支援者としてのコミュニケーション・スキルを学ぶ」～女性とその家族をエンパワースするのために～	講座7	「支援者としてのコミュニケーション・スキルを学ぶ」～女性とその家族をエンパワースするのために～
11/8(土)プログラム3日目 in 宇治市総合福祉会館		12/7(日)3日目 in 綾都市民ホール		12/23(火祝)3日目 in ガレリア亀岡		12/23(火祝)3日目 in ガレリア亀岡	
10:00	講座8	「赤ちゃんの栄養はお腹の中から」～胎児期から始まる、妊産褥婦、及び家族の食育の大切さ～	60分	講座8	「赤ちゃんの栄養はお腹の中から」～胎児期から始まる、妊産褥婦、及び家族の食育の大切さ～	講座8	「赤ちゃんの栄養はお腹の中から」～胎児期から始まる、妊産褥婦、及び家族の食育の大切さ～
11:10	講座9	「妊産褥期のメンタルヘルスとケア、子どもへの影響」	60分	講座9	「妊産褥期のメンタルヘルスとケア、子どもへの影響」	講座9	「妊産褥期のメンタルヘルスとケア、子どもへの影響」
13:10	講座10	「妊娠から母乳育児支援を学ぶ」～楽しく自信を持って母乳育児を継続するために～	110分	講座10	「子どもの発育・発達、育てにくさへの対応などを学ぶ」～赤ちゃんの視点から子育てを考える～	講座10	「子どもの発育・発達、育てにくさへの対応などを学ぶ」～赤ちゃんの視点から子育てを考える～
15:10	講座11	「子どもの発育・発達、育てにくさへの対応などを学ぶ」～赤ちゃんの視点から子育てを考える～	60分	講座11	「妊娠から母乳育児支援を学ぶ」～楽しく自信を持って母乳育児を継続するために～	講座11	「妊娠から母乳育児支援を学ぶ」～楽しく自信を持って母乳育児を継続するために～
11/15(土)プログラム4日目 in 宇治市総合福祉会館		12/11(日)4日目 in ガレリア亀岡		1/10(土)4日目 in ガレリア亀岡		1/10(土)4日目 in ガレリア亀岡	
10:00	講座12	「育児支援ヘルパーの視点から、いざい楽しく子育てができるように支援するために」	120分	講座12	「育児支援ヘルパーの視点から、いざい楽しく子育てができるように支援するために」	講座12	「育児支援ヘルパーの視点から、いざい楽しく子育てができるように支援するために」
13:00	講座13	「児童館、子育て広場など、地域でつなげる楽しさを学ぶ」～どのような形で一歩外へ踏み出せるか?～	60分	講座13	「協働・連携する行政施策、社会資源を知る」～必要なサービスが活用できるように～	講座13	「協働・連携する行政施策、社会資源を知る」～必要なサービスが活用できるように～
14:10	講座14	「今と昔の妊娠・出産・子育て事情の違いを知る」～今どきの子育て世代の心強い支援者になるために～パート2	120分(グループワーク)	講座14	「今と昔の妊娠・出産・子育て事情の違いを知る」～今どきの子育て世代の心強い支援者になるために～パート2	講座14	「今と昔の妊娠・出産・子育て事情の違いを知る」～今どきの子育て世代の心強い支援者になるために～パート2

(別紙2)

H26年度ミドワイフ道場 実施項目と参加人数

北部開催：年1回 13時半～15時

月日	テーマ	会場	師匠（講師）	会員	非会	学生
1/24 (土)	歯科衛生士から見た女性の健康	舞鶴市中総合会館5階 フレアス	舞鶴竹屋町森歯科 クリニック 森光恵	8	2	0

京都府助産師会館開催：通常第3金曜あるいは第1金曜 10時～11時半

○は潜在助産師

月日	テーマ	師匠（講師）	会員	非会	学生
4/22 (火)	10:30- 出張専門助産師だからこそできる訪問の醍醐味～妊婦健診・家庭分娩から産後の母乳育児支援まで～	当会理事助産所部会長 出張開業 木村泰恵（南支部）	20 ①	1	8
5/29 (木)	栄養士さんと連携しながら広めていこう！～胎児期から始まる食育の大切さ～	（公社）京都府栄養士会 管理栄養士 奥 泰子	14 ②	0	0
6/25 (水) 潜在	【南部開催】13:30-15:00 in 悠育助産院 15:00～16:00 助産院&くわはらこどもクリニック見学 あなたにもできる！！助産院開業を目指すあなたへ～いち勤務助産師が、夢を叶えるための極意とは？～	悠育助産院院長 谷口 利絵（南支部）	14 ①	2 ①	1
7/20 (日) 潜在	10:30-12:00 講演 12:00-13:00 質疑応答+昼食交流会 ある地方 BFH（赤ちゃんにやさしい病院）施設の仕事～医療、育児支援、ネットワーク作り～	舞鶴共済病院 小児科医師 増田淳司	14 ①	7	0
8/29 (金)	施設と地域をいかに連携させていけるか？～石垣島でのオープンシステムによるお産と、命の講座を通して～	当会理事中支部長 足立病院勤務 磯見悦子（西）	14 ①	0	9
9/19 (金) 潜在	子育てしながら孫育てまで、私の助産師人生を振り返って～家族の協力を得ながら、仕事を続けるコツ～	元当会理事北支部長 西田 敬子（北支部）	8	0	0
11/21 (金) 潜在	虐待未然防止の鍵となる～男性保育士の視点から、男性パートナーが、楽しみながら、育児に自信をつけていくには～	京都市立吉祥院保育所 地域子育て支援拠点事業担当 保育士 鶴川 真悟	8 ①	2	4
12/5 (金)	第2弾！確定申告への準備できていますか？～税法改正に伴う記帳説明会&質疑応答	下京税務署 税務職員	8	0	0
1/16 (金) 潜在	一步踏み出す勇気を持とう！～育児不安に寄り添いながら、助産師として歩み続ける道～	当会理事南支部長 出張開業 木下純子（南支部）	5	4 ①	11
2/20 (金)	第3弾！勤務助産師が抱えるジレンマ～診療所で、どうやって女性に寄り添えるか？～	松本クリニック師長 当会理事西支部長 岡崎久実子（西支部）	10	0	0
3/20 (金) 潜在	教育の現場から考える	光華女子大学 健康科学部看護学科教授 玉里 八重子（西支部）	8	0	0
合計			13 1 ⑦	18 ②	33

